

コグンカンドリ *Fregata ariel* の岩手県初記録

藤井忠志¹・佐々木務²・佐々木朋子²

The First Record of the Lesser Frigatebird *Fregata ariel* in Iwate Prefecture, Japan.

Tadashi FUJII¹, Tsutomu SASAKI² and Tomoko SASAKI²

1 岩手県立博物館, 020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34. Iwate Prefectural Museum, Morioka 020-0102, Japan.

2 本州産クマゲラ研究会 The Black Woodpecker Research Association in Honshu.

Abstract

We observed a Lesser Frigatebird *Fregata ariel* at Shijushida damsite, Morioka, Iwate Prefecture, Japan. One Lesser Frigatebird came flying there on May 4, 2011 and stayed for a short time. From its features, we identified it as a young winter plumage of Lesser Frigatebird with winter plumage. This is the first record in Iwate Prefecture, Japan.

はじめに

コグンカンドリ *Fregata ariel* の渡来記録は、日本でも珍しいと同時に本県においても初の記録と考えられることから、観察記録としてとどめておく。なお、本文の構成は日本鳥学会誌の観察記録に準じた。

観察記録

- 1 種名・観察個体数：コグンカンドリ幼鳥 1羽
- 2 観察者名：藤井忠志・佐々木務・佐々木朋子
- 3 観察日時・場所：2011年5月4日 16:43. 場所は岩手県盛岡市玉山区川又字赤坂・四十四田ダム湖東沿岸の観音橋上から(北緯39度46分, 東経141度10分).
- 4 観察距離：約 50 m以上離れた地点から、目視および8倍の双眼鏡を用いた観察とコンパクトデジタルカメラ等での記録撮影を行った。
- 5 観察した環境：岩手県盛岡市郊外に位置する人造のダム湖で、オオクチバス *Micropterus salmoides* 等の外来魚が多数生息し、それを採餌するためにミサゴ *Pandion haliaetus* 等をはじめとするタカ科鳥類が繁殖活動を行っている地である。また冬期は、オジロワシ *Haliaeetus albicilla* なども訪れ、野鳥観察に適した場所でもある。過去には、ヤマショウビン *Halcyon pileata* などの希少種も観察されている。
- 6 形態に関する記述：大型で全身が黒く、大きな燕尾形の尾で、長く先端がかぎ状に曲がった嘴。さらに長くて先のとがった翼で、飛翔時の羽毛は、頭部

および腹部が白く、胸は黒かった(写真1)。



写真1 飛翔中のコグンカンドリ

2011年5月4日(撮影：佐々木朋子)

- 7 種を同定した規準：グンカンドリ科鳥類は、熱帯海域にシロハラグンカンドリ *F. andrewsi*、メスグログンカンドリ *F. aquila*、コグンカンドリ、アメリカグンカンドリ *F. magnificens*、オオグンカンドリ *F. minor* の5種が分布する。しかし日本には、オオグンカンドリとコグンカンドリの2種(特にそれらの若鳥)が台風などの強い風に運ばれて迷鳥としてやってくるに過ぎない(長谷川1991)。大きさはオオグンカンドリがコグンカンドリよりも1回りほど大きいですが、飛翔個体は1個体のみでサイズの比較はできなかった。飛翔個体には、頭部から腹部まで白い部分があることから、羽毛の色に注目して同定を行った。オオグンカンドリもコグンカンドリも

頭部から腹部までが白いのは幼鳥だけである（桐原 2000）。しかし、オオグンカンドリは頭部・胸・および腹部のすべてが白く、飛翔個体は胸が黒いため、合致しない。コグンカンドリ幼鳥の場合には、胸は黒いが頭部・腹部は白く、さらに腹部の白が翼部分にまで伸びており（桐原 2000）、特徴がすべて飛翔個体と合致した。以上より、コグンカンドリ幼鳥と同定した（写真 1）。

8 観察した行動：5月4日 16:43 頃、盛岡市玉山区川又字赤坂付近で、一帯に生息するミサゴの生態観察を行っていた際に、上空を飛翔する本個体を発見した。当日は天候こそよかったが、冷たく強い風が吹いていた。四十四田ダム湖沿岸へ注ぐ飛田川にかかる観音橋から観察していると、観察者と同程度の高度で西側から飛来し、観察者上空を旋回して（写真 1）、南方向へ飛去した。

9 過去の記録とその文献：日本鳥類目録改訂第 6 版（日本鳥学会 2000）によると、北海道から九州まで時々飛来する種として扱われ、日本海域内の諸島では迷鳥として扱われている。特に日本では、台風通過後などに北海道から九州の太平洋岸・佐渡・伊豆諸島・大東諸島に飛来する場合や、内陸と日本海側で記録されることもある（桐原 2000）。岩手県におけるグンカンドリ属の記録は、1991 年 8 月に宮古市津軽石川のオオグンカンドリの記録 1 例（藤井・四ツ家 2008）のみである。以下に、少数ながら過去の記録を列挙する。

1) 越前町玉川 1985 年 5 月 19 日
（福井県県民生活部自然保護課 1998）

2) 愛知県常滑 1974 年（常滑野鳥の会 HP）
なお後日、2011 年 7 月 11 日に、久慈市侍浜麦生で村上悦夫氏が撮影されたコグンカンドリの画像（写真 2・3）も存在することが判明した。

10 その他：第一発見者 佐々木務・朋子

11 考察：本種は太平洋・インド洋の熱帯・亜熱帯海域および大西洋のトリニダード諸島に分布（桐原 2000）する小型のグンカンドリである。日本では西日本、特に九州北部で越冬し、東日本では稀である（桐原 2000）。さらに、岩手県野生生物目録（岩手県生活環境部自然保護課 2000）や岩手県産鳥類目録および岩手県産珍鳥詳細記録（藤井・四ツ家 2008）にも本種に関する記録が記載されていないことから、今回の観察が岩手県における初記録と考えられる。

なお、本種の成鳥は雌雄同色ではない（桐原 2000）とされているが、頭部が白く幼鳥であることから、外見での性別判定は困難であった。

今回、偶然にも岩手県内陸部の人造ダム湖上空で発見されたが、当日の強風に乗って流されてきた可能性も否定できない。しかし、どのようなルートをたどって本県に渡来したかは不明である。今後も、本種に関するデータを蓄積し追跡することで、そのルートが解明できるものと思われる。



写真 2
飛翔中のコグンカンドリ



写真 3
2011 年 7 月 11 日

（久慈市侍浜にて 撮影：村上悦夫）

引用文献

藤井忠志・四ツ家孝司（2008）岩手県産鳥類目録および岩手県産珍鳥詳細記録。岩手県立博物館研究報告 25：1-11。

福井県県民生活部自然保護課（1998）福井の鳥とけものたち。福井県みどりのデータバンク。動物目録（鳥類）。

長谷川博（1991）黒い大怪鳥 オオグンカンドリ、コグンカンドリ。動物たちの地球 14 鳥類 I ② ペンギン・ペリカン・ウハカ pp 6-50～6-51。朝日新聞社、東京。

岩手県生活環境部自然保護課（2000）岩手県野生生物目録。岩手県、盛岡。

桐原政志（2000）ペリカン目グンカンドリ科。日本の鳥 550 水辺の鳥、pp 66-67。文一総合出版、東京。

日本鳥学会（2000）日本鳥類目録（改訂第 6 版）、p 21。常滑野鳥の会 HP 鳥類目録 常滑の野鳥。

要 旨

岩手県盛岡市四十四田のダムサイトで、コグンカンドリを観察した。1羽が 2011 年 5 月 4 日に飛来し、短時間滞在した。その特徴から、コグンカンドリ幼鳥冬羽の個体と同定した。これは、岩手県初記録である。

キーワード：グンカンドリ科鳥類、四十四田ダム湖、幼鳥